石川工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	政治・経済

科目基礎情報

科目番号	20025	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	電気工学科	対象学年	3
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	『新政治・経済』　(清水書院)		
担当教員	市嶋 聡之		

到達目標

1. 近現代における政治の基本原理・統治機構の仕組みを理解する
2. 日本国憲法の基本原理を理解する
3. 現代日本の行政と分権、問題点や課題を理解する
4. 近現代における経済の基本原理と経済体制の変遷を理解する
5. 市場のメカニズムを理解する
6. 経済に対する政府の役割と影響力、問題点を理解する
7. 現代日本と国際社会がもつ経済の諸問題について理解する

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	近現代における政治の基本原理・統治機構の仕組みを正確に理解する。	近現代における政治の基本原理・統治機構の仕組みを理解する。	近現代における政治の基本原理・統治機構の仕組みを理解していない。
評価項目2	日本国憲法の基本原理を正確に理解する。	日本国憲法の基本原理を理解する。	日本国憲法の基本原理を理解していない。
評価項目3	現代日本の行政と分権、問題点や課題を正確に理解する。	現代日本の行政と分権、問題点や課題を理解する。	現代日本の行政と分権、問題点や課題を理解していない。
評価項目4	近現代における経済の基本原理と経済体制の変遷を正確に理解する。	近現代における経済の基本原理と経済体制の変遷を理解する。	近現代における経済の基本原理と経済体制の変遷を理解していない。
評価項目5	市場のメカニズムを正確に理解する。	市場のメカニズムを理解する。	市場のメカニズムを理解していない。
評価項目6	経済に対する政府の役割と影響力、問題点を正確に理解する。	経済に対する政府の役割と影響力、問題点を理解する。	経済に対する政府の役割と影響力、問題点を理解していない。
評価項目7	現代日本と国際社会がもつ経済の諸問題について正確に理解する。	現代日本と国際社会がもつ経済の諸問題について理解する。	現代日本と国際社会がもつ経済の諸問題について理解していない。

学科の到達目標項目との関係

本科学習目標 1 本科学習目標 3

教育方法等

概要	本授業では、18歳以上の有権者として必要となる政治および経済に関する基礎知識を身につけることを第一の目標とする。そして、大きな変動の渦中にある現代においてビジネスパーソン・技術者として必要な、社会の本質を把握して対応していくための洞察力や判断力を養うことを目指す。
授業の進め方・方法	関連科目：地理，倫理，歴史Ⅰ，歴史Ⅱ，法学 MCC対応：Ⅲ－C 社会、Ⅶ 汎用的技能、態度・志向性（人間力）、Ⅷ　態度・志向性（人間力）、Ⅸ　総合的な学修経験と創造的思考力
注意点	評価方法・評価基準 中間試験と期末試験を実施する。 中間試験（５０%）期末試験（５０%） 成績の評価基準として５０点以上を合格とする。 注意事項と学習上の助言： ・毎回、授業範囲のレジュメ（プリント）を配付する。これが試験の直接的出題根拠となるので紛失しないよう必ず保存すること。 ・レジュメ（プリント）を板書・ノート代わりに使用する。ノートを書く作業時間を要しない分、授業の進行は速くなるので講義を聞いて理解することが重要である。

テスト

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス・民主政治の基本原理	民主政治の基本原理について説明できる
		2週	政治思想史・世界の政治体制	近代民主政治の思想史・世界の政治体制について説明できる
		3週	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理について説明できる
		4週	国会	国会の制度と実態について説明できる
		5週	内閣と行政機関	内閣と行政機関の制度と実態について説明できる
		6週	地方自治	地方自治の制度と実態について説明できる
		7週	選挙制度	選挙制度の仕組みと実態について説明できる
		8週	現代政治の諸問題	現代の日本政治および国際政治の諸問題について説明できる
	2ndQ	9週	近現代経済の理論と実態	近現代経済の理論と実態について説明できる
		10週	市場原理	市場原理について説明できる
		11週	経済成長と景気変動	経済成長と景気変動について説明できる

		12週	財政の仕組み	財政の仕組みについて説明できる
		13週	金融の仕組み	金融の仕組みについて説明できる
		14週	現代経済の諸問題	現代の日本経済と国際経済の諸問題について説明できる
		15週	前期復習	前期学習のまとめ
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	

				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0